

令和7年度 国語教育夏季研修大会 提案資料

東松山市立高坂小学校 横山 瑞季

主体的に学び続ける児童の育成

～資質・能力の育成を目指した言語活動の充実～

1 主題設定の理由

(1) 学力調査から

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を見ると、全国平均よりはいずれも上回っている。埼玉県平均と比べてみても、国語Aの平均正答率は77.1%（埼玉県平均73.9%）、国語Bの平均正答率は26.4%（埼玉県平均26.1%）であり、学力について概ね満足できる状態にある。しかし、領域別に見ると、唯一国語Cの「読むこと」の領域が正答率71.6%（埼玉県平均72.5%）と埼玉県平均を下回っている。

また、令和5年度埼玉県学力・学習状況調査の結果を見ると、4～6年とも国語の平均正答率は県平均を下回っている。特に、構造と内容の把握、精査・解釈に関わる問題で正答率が特に低くなっている。

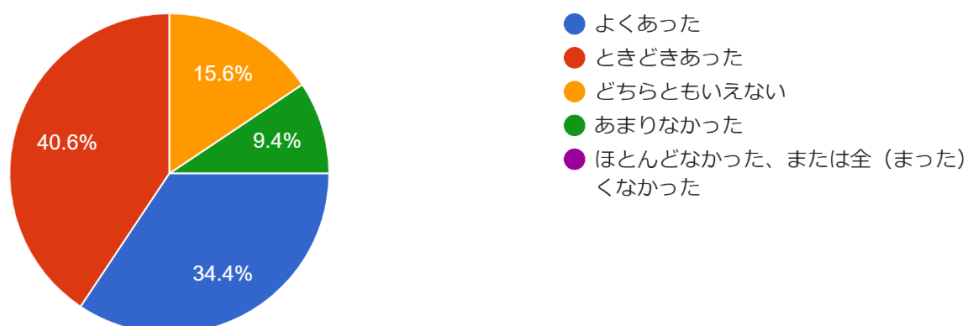
(2) 年度当初の児童の実態

新年度が始まり、最初の文学的な文章の単元が終わった後、「主体的・対話的で深い学びに関するアンケート調査」（義務教育指導課研修用資料サイトより）を実施した。結果は、以下の円グラフのとおりである。

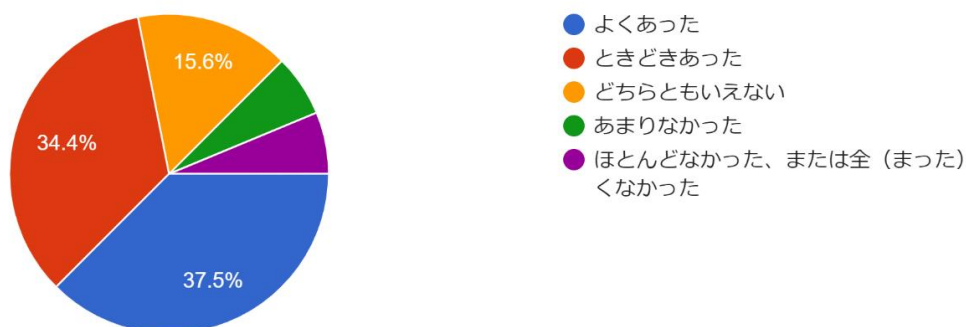
1の「授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと」では、8名が「どちらともいえない」「あまりなかった」と回答している。2の「授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分がわかったことやわからなかったことを理解したこと」では、9名が「どちらともいえない」「あまりなかった」「ほとんどなかった」と回答している。9の「授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと」では、16名が「どちらともいえない」「あまりなかった」「ほとんどなかった」と回答している。

1. じゅ業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと

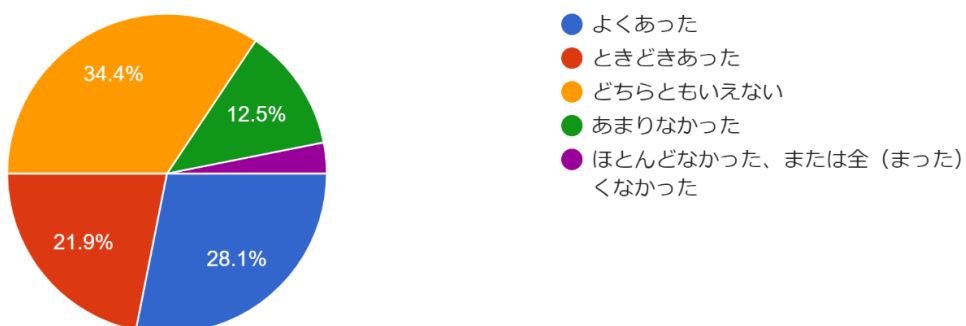
32件の回答



2. じゅ業の終わりに、じゅ業で学んだことをふ...ったことやわからなかったことを理かいしたこと
32 件の回答



9. じゅ業で学んだことが、い前に学習した知しきとつながったこと
32 件の回答



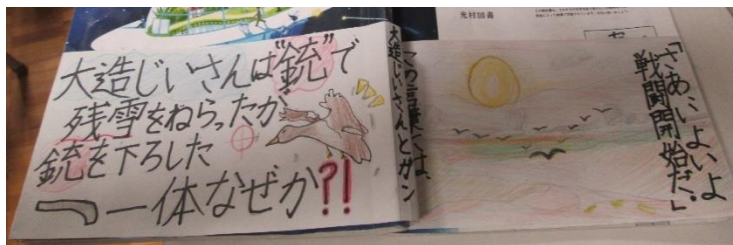
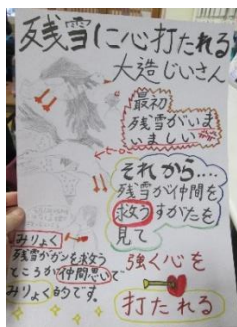
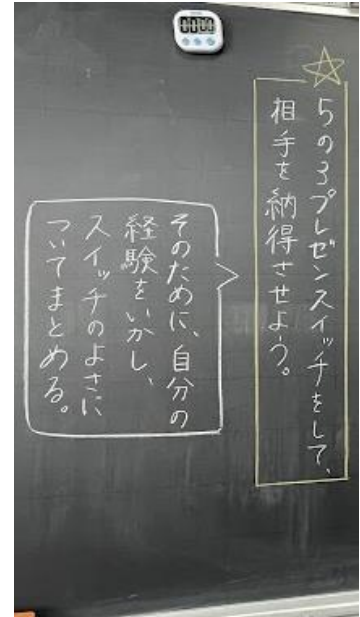
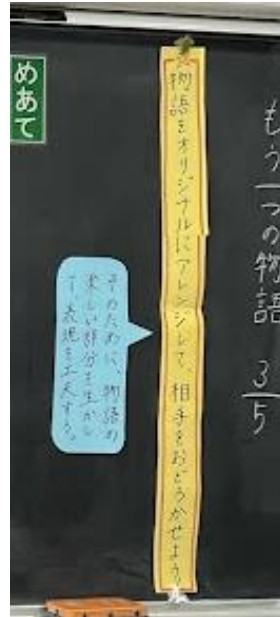
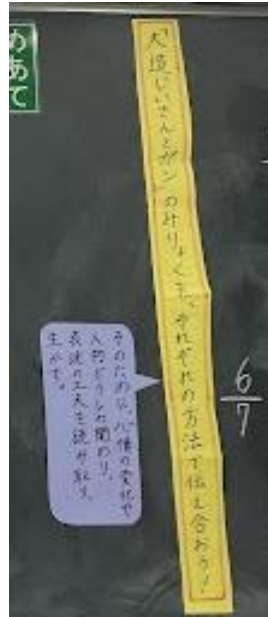
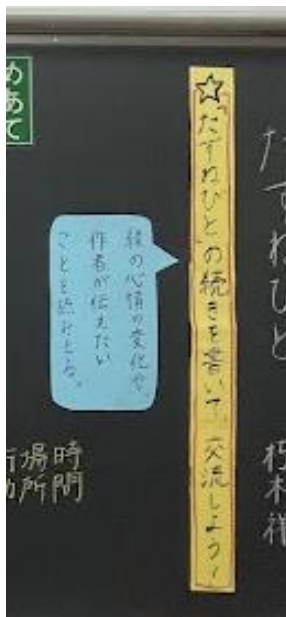
このことから、本学級の児童は、見通しをもって学習すること、何ができるようになったのかを振り返って次につなげること、既習事項と関連付けて考えることに課題があると考えた。

2 研究実践

児童の実態から見えてきた課題を解決するために、1年間を通して以下の6つの実践を行った。

(1) 学習のゴールを児童が決める。

学習内容に興味関心をもって取り組むために、学習のゴールを児童と一緒に決めた。興味関心をもって楽しく学べるゴールにしつつも、指導事項から大きく反れないように、助言をしたり教科書の流れを児童と見たりしながら進めた。そして、ゴールを達成した後の姿を具体的に想像し、学習計画を立てやすくするために、「ゴールを達成するために何をするか」を簡単にまとめた。“ゴール+そのために”を最初に決めておくことで、見通しをもって学習に入れると考えた。



文学的文章教材の単元のゴールでは、これまで「物語の続きを書いて交流しよう」「物語の魅力を伝え合おう」等のゴールを設定してきた。年度末の「大造じいさんとガン」の学習では、魅力を伝え合うというゴールは同じでも、伝え方は個人で決めるようにした。続きを書く、ポップを作る、ポスターにする、ガンの視点で書き直す、本の帯を作る等、様々な方法で魅力を伝え合っていた。

説明的文章教材では、「説明の工夫を習得して、文章の納得度をランクアップさせよう」「プレゼンをして相手を納得させよう」等のゴールを設定した。「固有種が教えてくれること」の学習では、総合的な学習の時間と関連付けて、環境問題についてまとめた文章を、筆者の説明の工夫を取り入れてランクアップさせた。

「海洋汚染、海洋ゴミについて」

私は人間の生活を豊かにするためには、主な海洋汚染の原因、プラスチックのゴミ捨てや不法投棄をおさえることが必要であると思う。なぜならそれらは海の生き物だけではなく、人間にも被害をもたらすからだ。

海洋汚染の中で原因とされるものが大きく分けて二つある。その一つが海洋ゴミとい、海洋汚染の原因の主たるものとして世界でも問題視されている。特に問題になっているのが海洋プラスチックごみである。地上で出たペットボトルや、ビニール袋など、プラスチックを主としたゴミが海に流れ込み、汚染の原因となっている。また、日本の海岸に海洋ゴミが流れ着くことがある。これを漂着ゴミという。もう一つ深刻なのは、マイクロプラスチックと呼ばれる直径5ミリのプラスチックゴミである。これはペットボトルが劣化して細かなプラスチッククメンになることで、マイクロプラスチックになってしまうケースがある。調査では北極海でも南極海でも観測されたと言われている、日本海にも広く漂着している。

しかし、海洋汚染がもっとひどくなると海がゴミだらけになり、魚が死んでしまう。そうなると人間の生活にも大きく影響が及ぼすのだ。

そうならないために、海洋汚染をおさえる必要がある。海洋汚染の原因、プラスチックのゴミ捨てを、やめたほうがいいのではないだろうか。



資料②

資料①

海洋汚染とは、ゴミで海が汚れてしまうことです。私はそうならないために、主な海洋汚染の原因、プラスチックのゴミ捨てや不法投棄をおさえることが必要であると思います。なぜなら海洋汚染は海の生き物だけではなく、人間にも大きな影響をもたらすからです。

資料①のグラフを見ると、プラスチックが海洋汚染の主な原因です。プラスチックは大きく分けて二種類あります。一つは海洋プラスチックごみで、地上で出たペットボトルや、ビニール袋など、プラスチックを主としたゴミが海に流れ込み、汚染の原因となっている。また、日本の海岸に海洋ゴミが流れ着くことがある。これを漂着ゴミという。もう一つ深刻なのは、マイクロプラスチックと呼ばれる直径5ミリのプラスチックゴミである。これはペットボトルが劣化して細かなプラスチッククメンになることで、マイクロプラスチックになってしまうケースがある。調査では北極海でも南極海でも観測されたと言われている、日本海にも広く漂着している。

しかし、海洋汚染がもっとひどくなると海がゴミだらけになり、魚が死んでしまう。そうなると人間の生活にも大きく影響が及ぼすのだ。

そうならないために、海洋汚染をおさえる必要がある。海洋汚染の原因、プラスチックのゴミ捨てを、やめたほうがいいのではないだろうか。

（２） 学習計画、授業のめあてを児童がたてる。

（１）で決めた“ゴール＋そのために”を基に、ゴールから逆算して学習計画を立てた。“そのために”があることで、何をすればよいか明確になった。そしてその学習計画から、毎時間のめあてをたてた。学習計画があることで、どのようにゴールに向かっているかがわかり、見通しをもって学習することができた。何かを決めるときは必ず、児童の言葉でつくることを心がけた。

（３） 学習の仕方を選択させる。

活動をする際に、エリア分けをした。「一人でぐんぐん」「友達と一緒に」「先生に聞きながら」の３エリアをつくり、どこで活動したら時間内に終わらせるかを子供たちに選択させた。活動中の移動も可能にした。また、どの活動の際にもアドバイスタイムを設けた。順調に進んでいる児童から、どうすれば課題が解決できるのかを全体に広めてもらった。友達がやっていることだと、それならできそうと思える児童が増え、困っていることも言いやすくなっていた。

（４） 既習事項との関連を意識させる。

本学級の児童は、知らないことや分からないことに出会うと、「難しそう」「できなそう」と不安がる児童が多い傾向にあった。そのため、以前学習したことや経験したことがあることを話題に出すと、「できそう！」「やってみたい！」という反応が返ってきた。どの学習でも児童の不安を軽減し、ゴールへの見通しがもてるように、既習事項との関連を意識して授業を行った。前年度の教材を思い出したり、これまでにやったゴールの短冊を見たり、ノートを振り返って前の説明文や物語文の時は何ができるようになったかを確認したりした。そして、教室に既習事項の掲示物を貼り、いつでも振り返れるようにした。

（５） 振り返りを充実させる。

児童の意識調査から、１時間の授業で、何ができるようになったのかを振り返って次につなげることに課題があると分かったため、毎時間振り返りの時間を設けた。しかし最初は、何を書いていいかわからない児童や、感想になってしまう児童も多くいた。そこで、①習慣化する②視点を与える③予想しておく④紹介することの４つを意識して振り返りを行うようにした。

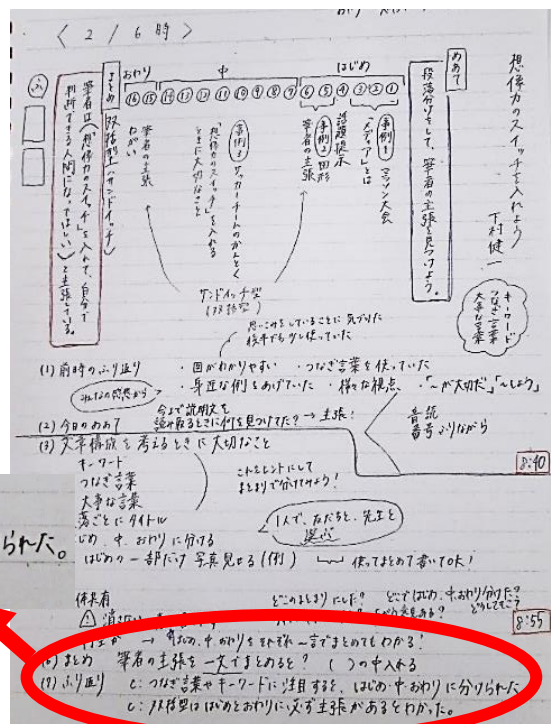
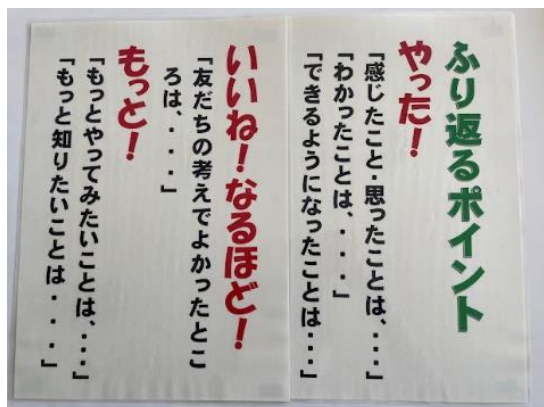
①は、毎時間書くことで、書くこと自体へのハードルを下げたいと考えた。どうしても時間が取れないときは、ペアで話をして振り返るようにした。

②は、次ページ左上の資料のような振り返る視点を毎時間黒板に貼った。また、「今日はどんな振り返りが書けそう？」「今日見つけた筆者の主張を読み取るポイントは？」等を児童に聞き、少しやり取りをしてから書く時間を設けたこともあった。

③は、次ページ右上の資料のように教材研究ノートに書く際に、期待する児童の振り返りも書くようにした。どんな振り返りを書いてほしいか予想しておくことで、その授業の着地点が決まり、押さえたことが明確になった。

④は、授業の始めに前時の振り返りも兼ねて、自分の学んだ過程や学び方を言語化できている児童の振り返りを紹介するようにした。もともと言語化できている児童にとっては意欲に、言語化が難しい児童にとっては書き方の参考になった。また、「どこがよかった？」と児童に問いかけ、どんな振

り返りなら今後の学びにつながるのか、共通理解を図った。そして振り返りから本時のめあてへとつなげた。



(6) まとめ 筆者の主張を一文ずつとめると? ()の中に入る
(7) ふり返り c: つなぎ言葉やキーワードに注目すると、はじめ・中・おわりに分けられた。
c: 1人1枚の紙ははじめとおわりに必ず主張があることがわかった。

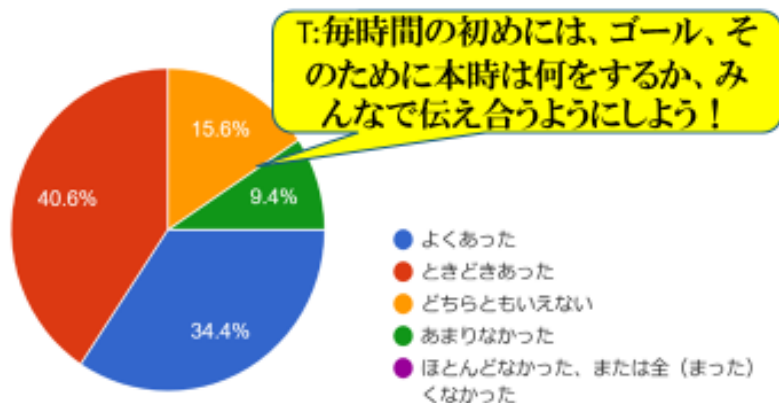
(6) アンケート結果から手立てを検討する。

冒頭で示したアンケートを、大きな単元が終わるたびに実施した。その結果を見て、PJ 教員と一緒に効果的な手立てを検討し続けてきた。「この項目は、この手立てが有効だったから伸びたのではないか」「この項目は、ここを改善して次の単元はやってみよう」などの話し合いを重ねた。また、児童にもアンケート結果を見せたり、1学期の結果と比べたりした。

質問1: 授業の初めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと

4月「銀色の裏地」

3月「大造じいさんとガン」



3 手立ての検証（成果と課題）

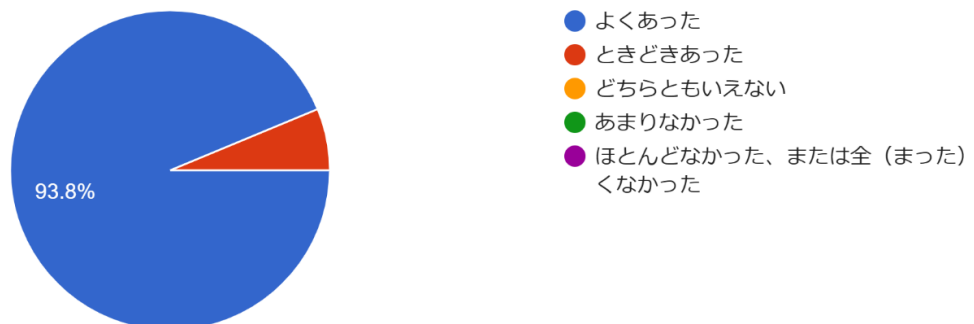
（1）成果

① 児童が意欲的に学ぶようになった。

1年間を通して、児童が国語の授業に意欲的に取り組むようになった。下の円グラフは、最後の文学的な文章の学習後に行ったアンケート結果である。4月当初と比べて、どの項目も「よくあった」と回答する児童が増えた。自分たちで何かを決める場面や、既習事項とのつながりを実感できる場面が多かったことがこの結果につながったのではないかと考える。

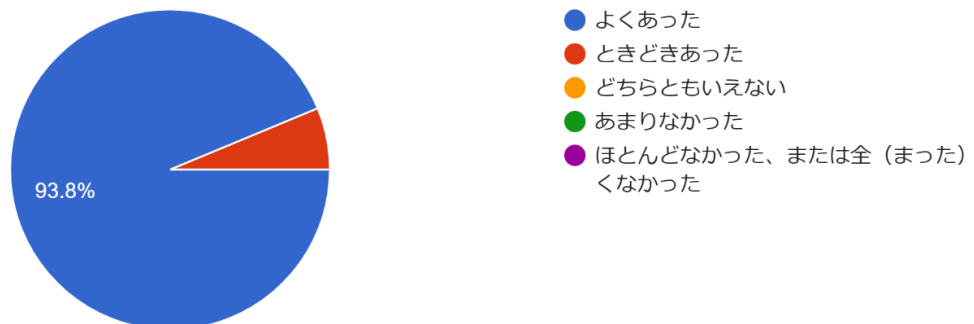
1. じゅ業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと

32件の回答



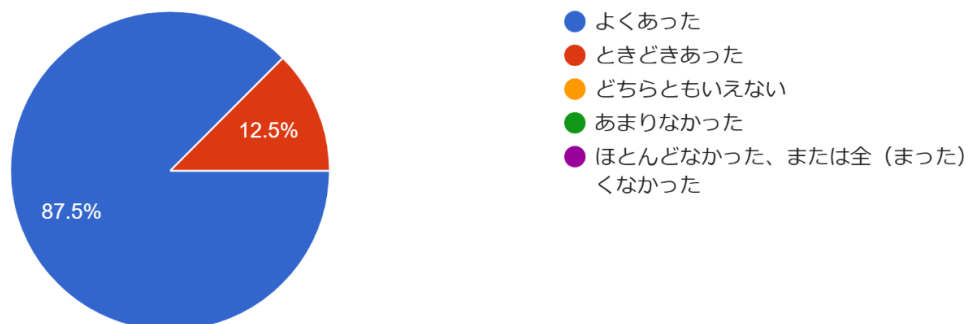
2. じゅ業の終わりに、じゅ業で学んだことをふ...ったことやわからなかったことを理かいしたこと

32件の回答



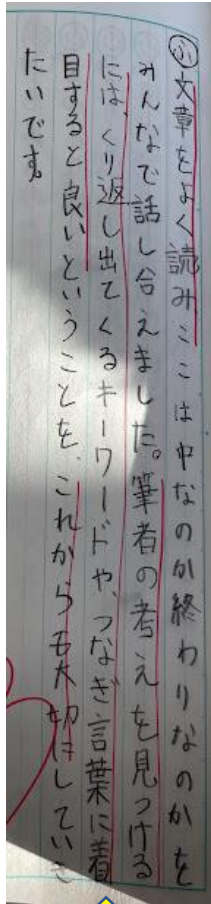
9. じゅ業で学んだことが、い前に学習した知しきとつながったこと

32件の回答

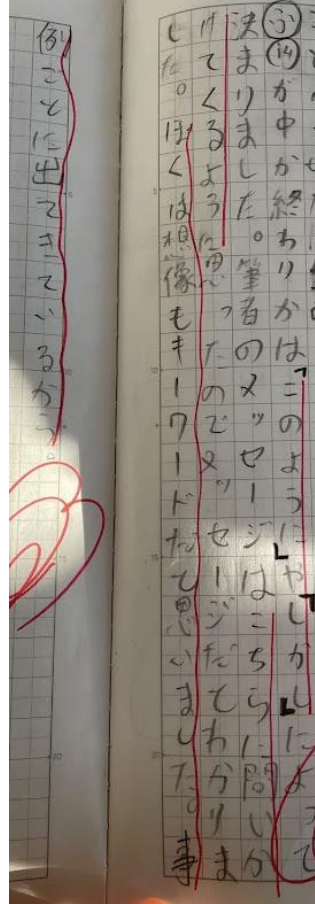


また、発問に対するつぶやきが増え、多様な考えが上がるようになった。ペアやグループで話し合う機会を多く設け、児童の言葉で授業をつくっていったからだと考える。

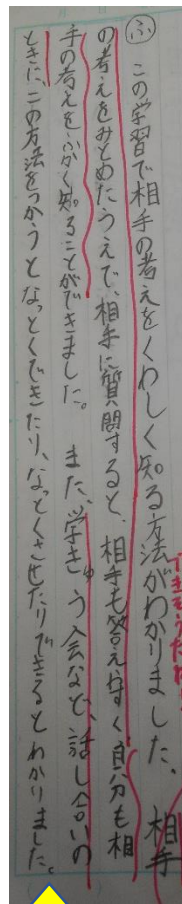
さらに、振り返りの文量が増え、内容もレベルアップした。以下の資料のように、何ができるようになったのかを振り返って、次につなげることができていた。



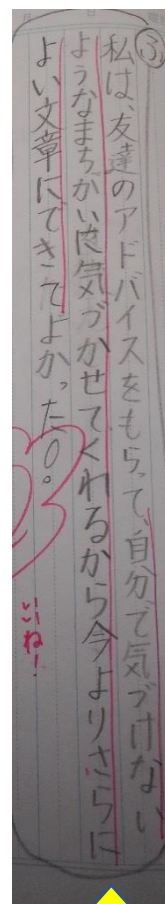
…筆者の考えを
見つけるには、



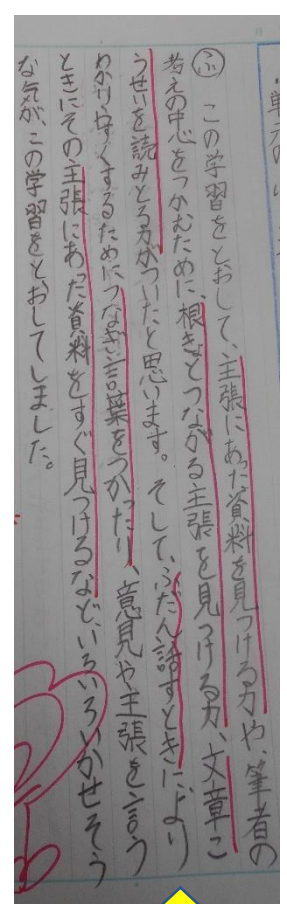
…ので、～～だと
分かりました。



*…すると、できる
ようになった。
*…の時に使うと、



友達のアドバイ
スをもって…
できてよかった



*…の力がついた
*ふだん…の時に
…をいかせそう

② 学び方が身に付いた。

教科書や全文シートに色分けをしたり、しるしをつけたり、メモをとったりと自分たちで学び方を工夫して取り組む姿が多く見られるようになった。また、自分で学ぶ場を選ぶことができるようになったり、友達に聞くと考えが深まることに気づき、アドバイスタイムを取りたいと児童から声が上がったりすることが増えた。

(2) 課題

- ① 学び合いを通して解決できたという実感がもてない児童がいる。

学び合いを増やしていくことで、自分たちで課題を解決した実感もできるのではないかと考える。また、学び合いの前後で考えの変容が分かる工夫をすることも実践していきたい。

- ② つぶやきは増えたが、全体の前で発表することには躊躇する児童が多い傾向にある。

理由を聞くと、「自信がないから」と答える児童が多かった。自信をもってアウトプットできるように、①と同じく自分で解決した実感をもたせたい。